

活動ノート



9月3日(土)
アカマツ林作業
13:00~15:30



◆参加者：松雪、榊、国広、林、鎌田、川上、鈴木、小川、白石 計9名

◆内容：台風が接近しており天気が懸念されましたが、幸いにも雨も降らず作業には支障のない天気となりました。ただ、台風の影響が極めて湿度が高く、気温が比較的低い割にはムシムシし、まさに熱中症日和といった状況での作業となりました。今日の作業は、6・7月の多雨や8月の高温のせい、例年になく繁茂しているA・C地区斜面での草刈り及び萌芽枝の除伐が中心です。午前中のうんえー会が少し伸びた関係で、13時から打ち合わせや道具準備を始め、実際の現地での作業は13:30頃からの開始となりました。今日は、前日の雨のせいですべりやすくなっている急斜面での作業が中心となるため、転倒やお互いの近接作業に注意するとともに、熱中症日和の中での作業であったため30分おきの休憩を確実に取りました。また、草やシダが腰近くまで伸びていたため、草の中に埋もれているアカマツの幼木などを間違えて刈らな

いよう、注意エリアには専任者を決めて作業を行いました。その効果もあってかA地区中腹部のエリアでは、30株前後のアカマツの赤ちゃんを見つけることができました。また、10cm以上に育ったアカマツの幼木もかなりの密度で見つかり、陽が当たりやすいようにしてあげることができました。下草の他に、ヤマウルシやヤマハゼなどを中心とした萌芽枝が、大きいものでは2m以上伸びており、また数も多かったことからそのほとんどを除伐しました。これらの萌芽枝は今年の冬以降に伸びたものと思われるのですが、その成長の速さには本当に驚かされました。ただ、ササクサなどの「ひつつき虫」が極めて多く、皆さん「イタイ、イタイ」と言いながらのつらい作業でもありました。なお、C地区中央部の、5年以上前に松くい虫で枯死したアカマツの残材が積み重なっている谷部では、巣作り場所を見つけるためか、スズメバチが飛び回っていたため作業は行いませんでした。ここでは例年スズメバチがこの時期に飛び回っていますので、今後巣作りができないよう、この残材を処理する必要があると思っています。また、作業終了後にマダニが身体にくっついていてる会員がいたことが確認されたことから、これらの「危険生物？」への対策が必要なことを実感させられました。今日の作業は予定時間(14:50)ころにはほとんど終了し、必要な範囲の草刈り

等は事故やけが等も無くほぼすべて終わることができました。

「ひつつき虫」と闘いながらの急斜面での作業となり、参加者の方は大変だったと思いますが、これで10月の伐倒にスムーズに移ることができ感謝する次第です。最後に、A・C・D地区に4月に移植したアカマツの幼木は、約7割の確率で根付いているのが確認できました。来年の春先には、他のギャップ地にも積極的に移植を行いたいと思っています。

【ふりかえりより】

・草刈り開始前はハチの存在にも注意を払う必要ありですね。スズメバチがウロウロしていました。

(国広)

・むし暑く、ひつつき虫にも苦労しましたが、小さなマツなどに日光を当てられるようになって良かったです。(鎌田)

9月25日(日)
カブトムシの森作業と勉強会
9:30~14:05



◆参加者：鎌田、榊、川上、橋本、長澤、織田、白石、静間 計8名

◆内容：初めに室内でオリエンテーション。皆さんにどんな時に秋を感じるかを話してもらったところで、今日の勉強会の内容とお題をざっと説明。テーマは秋の

七草を探す、「ひつつきむし」をじっくり観察する、冬芽を今の内に見ておく、実を探すの四つ。その間気になったものなどを適宜集めて、最後にイチオシを発表して貰うという企画でした。虫眼鏡も準備したので、センターを出たところからヒツキムシを熱心に観察するなどで、オケラ、キキョウを見て貰うところまで辿りつくのに15分以上かかってしまいました。更にヤマボウシの実、タマゴタケなどのキノコと盛り上がり事に事欠かなかったので、E地区に来たところで早や11時前。ここではコシアブラの花にさまざまなムシが集まっていて、ミカドアゲハも見られました。その他アサギマダラやゴマダラチョウも登場して賑やかで、とてもF地区まで行っている余裕が無くなったのでここで引き返して、カブ森に向かいました。結局カブ森の東屋に着いたのが11時30分を廻ってしまったので、A、B地区は諦めてC地区だけの観察会をして、最後に発表会をしました。午後の草刈りは12時35分から作業にかりましたが、観察会の際にクヌギの萌芽枝、実生の存在を説明できたので、丁寧な作業が出来ました。最近補充した刈込鋏が、なかなかいい働きをしてくれました。30分ばかり作業したところで雨が降り出したので作業を中止しましたが目立つような場所は刈れたので良かったです。半分くらい残りましたが、草本は何れ自然に枯れて目立たなくなるでしょう。

【ふりかえりより】

・2か月ぶりの森会でしたが、やはり森の中は気持ちがいいです。午前中はいろいろと発見できて

楽しかったです。(橋本)

・久しぶりに「ひつつきむし」にまわりつられて、子供の頃を思い出した。(長澤)

10月9日(日)

アカマツ林作業

9:30~16:00



◆参加者：林、井上、森山、藤木、静間、織田、榊 計7名

◆内容：朝方まで降っていた雨が上がり、作業日和の良い天気になりました。午前中は、斜面がぬかるんでいたため、EF地区の遊歩道周辺の草刈りをしました。午後からはCD地区へ道路を確認しながらの補修です。まず、下部の処理材置き場の整理をし、その後、処理材置き場の補強の為に、クヌギとカラスザンショウの木を伐木しました。ところが、クヌギを切る時に、木の上方確認不足で伐倒セットを使わずに伐倒したため、「掛かり木」になってしまいました。チルホールを使って途中まで引っ張りましたが、なかなか落ちず、結局作業時間が足りなくなったためロープで固定しました。この掛かり木は次回の活動で処理することとして今日の作業を終わりました。斜面で足元が悪く滑るので大変な作業でした。

【ふりかえりより】

・掛木処理の大変さを体感、基本の大切さを実感(織田)
 ・草刈りで松の小さな株がいっぱい出てきました。ササクサをすべて刈りました(静間)

11月5日(土)

カブトムシの森作業、植生調査

9:30~16:00



◆参加者：静間、榊、林、柴戸、鎌田、松雪、橋本、中嶋 計8名

◆内容：午前中はA地区で植生調査をするので、伐採はC地区から始めることにしました。2班に分れて作業にかり、ロープを使用して掛かり木にならないよう注意しながら、手順に従って伐採しました。C地区では6本のクヌギとビワを伐採、クヌギはシイタケ菌打ちに、ビワは木工教室で活用します。午後はA地区で更に2本のクヌギを伐採しましたが、1本が園内道路柵に懸ってしまい、その処理にかなりの時間を要してしまいました。伐採木は葉枯らしにする為、邪魔にならないように最小限の処理をした上で現地に倒しています。楢木への最終処理は1月の特別活動で行う予定です。植生調査は、A地区植生調査区画で林床草本の継続観察をしました。カブ森の変化を観察するため、A地区の10m方形区の中で、草本の蕾、花、果実を調査しています。3人で10時半ころから13時前まで実施しました。久しぶりの野外で、お天気にも恵まれ、凶鑑、ルーベを手に頭をひねりつつ、植物を注意深く見る楽しい時間でした。10月16日(日)に実施予定が雨で延期となり本日実施。果実など多く確認できましたが、予定通りの日

だと、花ももう少し見ることができたかもしれません。

【ふりかえりより】

・4本切るのはとても疲れしました。秋のさわやかな一日を堪能出来ました。（松雪）

・久々のフィールド調査で、植物と触れあえてリフレッシュできました。知らなかった植物も分かって良かった。（中嶋）

11月13日（日）

アカマツ林作業

9:30~15:30



◆参加者：松雪、榊、国広、林、毛利、静間、鎌田、織田、白石、井上、橋本 計11名

◆内容：少し雲の多い朝でしたが、作業にはピッタリの一日の始まりです。本来は紅葉真っ盛りの時期なのですが、今年は冷え込みが足りなかったせいか少しくすんだような色が多いようです。今日の作業は、これまでの伐倒作業などで発生し、C地区の斜面途中にやや乱雑に積み重なっていた残材の処理、及び植生遷移を防ぐための広葉樹の除伐です。スケジュール的には、予定通り9:30からミーティングや道具準備、準備体操などを行い、10時過ぎから現地での作業を開始しました。今日は人数的にやや少なかったので材処理と除伐の2班に分け、並行して作業を進めました。まず除伐班は、直径25cm程度のクマノミズキの伐倒にとりかかりま

した。今日も急斜面での作業となるため、基本を忠実に守って安全を確保することを重点目標とし、上方や四周の安全確認、確実な足場確保、適切な受け口作りなど時間をかけて伐倒作業を行いました。ということで、1本目の除伐は午後までかかりましたが、計画通りのきれいな伐倒を行うことができました。続いて2本目の除伐に取り掛かり、受け口・追い口作りまでは極めて順調に進みました。ところが、思った以上に木の重心が伐倒方向の反対側に偏心しておりなかなか倒れてくれません。結局、ロープを掛け直したり、追い口を修正したりで、倒れるまで30分以上かかる難作業となりました。枝が横に張っている広葉樹の伐倒の難しさをつくづく実感させられた次第です。一方材処理班は、斜面途中に積み重なっている大量の枝や、25~35cmもある大きな幹を下まで下ろし、11月9日の特別活動で整備した大きなヤードに放り込むという、ひたすら体力が勝負という斜面上の作業です。何しろ量が多く、またヤードまでの距離がやや長いこともあって、本当にキツイ思いをしました。特に大きな幹は極めて重く、またなかなかうまく転がって落ちてくれないため、ヘトヘトになりながら何とかヤードまで運びました。それでも斜面上の材はほとんど搬出され、本当にきれいですっきりした景観になりました。か弱い人力でもやればできるということを実感することができた次第です。この材処理作業もほぼ午後の早い段階で終わり、その後は伐倒班が伐り倒したクマノミズキの枝処理と、それに併行して直径

10cm程度の幹が3本株立ちしたヤマハゼの除伐を行いました。これらの作業自体は比較的短い時間で終わることができましたが、ヤマハゼ伐倒の時、材処理を行っているグループの方に木が倒れてくるという本来はあってはならないことが起きました。幸い、木が細くかつ作業員まで木が届かなかったため、事故にはつながりませんでした。いかに予定されている伐倒方向から外れているとはいえ、受け口側に人員がいる、あるいは受け口側を通ることの危険性を再認識させられた事象でした。やはり、「だろう」ではなく「かもしれない」という基本的なリスク管理を今後は徹底していくべきことを実感させられました。今日の作業で、C地区は見違えるほどすっきりした森となり、斜面下の遊歩道がきれいに見えるようになりました。今後はB・D地区側への除伐を進め、さらにアカマツ林らしい景観を取り戻していきたいと思います。

【ふりかえりより】

・初めてのカメラ係も少し緊張しました。良い写真が撮れていると嬉しいです。（毛利）

・広いヤードが出来、残材を処理できてスッキリしました。斜面は足場が悪く足首が疲れしました。（織田）

